

「郡上踊」無形遺産に



新型コロナウイルスの影響を経て3年ぶりに開かれた郡上踊で、踊りの輪をつくる人たち＝7月9日、郡上市八幡町

ユネスコ勧告、「寒水の掛踊」も

国連教育科学文化機関（ユネスコ）の評価機関は、郡上市の「郡上踊」「寒水の掛踊」など伝承されてきた24都府県41件の民俗芸能「風流踊」を無形文化遺産に登録するよう勧告した。文化庁が1日発表した。11月28日から12月3日までモロッコで開かれるユネスコ政府間委員会で、勧告通り登録が正式決定する見通し。各地の踊りは人口減少や高齢化による担い手不足が課題となっており、登録が実現すれば、伝統継承の励みとなりそうだ。

風流踊は華やかな衣装をまとい、太鼓や笛のはやし、歌に合わせ

ずれも国の重要無形民俗文化財に指定されている。県関係では2014

年登録された本美濃の歴史や風土を反映した祈りが込められている。日本三大盆踊りの

文化審議会が2020年2月、23都府県の37件をまとめて一つの

「郡上踊」（郡上市）や「西馬音内の盆踊」（秋田）が含まれ、い

行事（高山市）、「古馬の盆踊」（長崎）など4件を追加し、再申請した。

無形文化遺産 2006年

まね、登録の可否を決める。

発効の無形文化遺産保護条約に基づき、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が登録する伝統芸能や工芸技術、祭礼行事など。締約国から選ばれた24カ国の政府間委員会が、評価機関の事前審査と勧告を踏

世界全体の登録総数は現在530件。日本は歌舞伎や能楽、和食、和紙など22件で、登録数は中国に次いで2番目に多い。登録審査は毎年行われるが、登録数の多い国は2年に1回の審査となっている。

風流踊に続く候補として、政府は今年3月、日本酒や焼酎、泡盛などの「伝統的醸造り」の登録をユネスコに申請した。